

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会

熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105

Tel 096-285-7761

Fax 096-285-7762

E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp

URL http://kumacsw.com/

発行責任者 深谷 誠了

編集責任者 田上 緒

発行日 2021年12月

一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくもと

Certified Social Worker

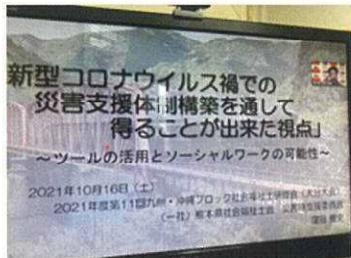
72
号

2021年度第11回九州・沖縄ブロック社会福祉士研修会

【実践報告】

災害時支援委員会を代表して、2021年10月16日（土）に開催されました、「2021年度-第11回-九州・沖縄ブロック社会福祉士研修会」の実践報告会にて発表をしました。テーマは、「新型コロナウイルス禍での災害支援体制構築を通して得ることが出来た視点～ツールの活用とソーシャルワークの可能性～」として、昨年発生した「令和2年7月豪雨」で被災した球磨村へ当会が実施した災害支援活動の中で、支援活動の体制整備を担った“サポートチーム”的活動について報告をしました。コロナ禍というこれまで誰も経験したことのない状況下で、初めて当会のみで災害支援活動を運営するという大きな課題を抱えてスタートした支援活動でした。実践報告の中で、支援活動員の活動がスムーズに実施できる

よう、試行錯誤しながら様々なツールを活用して体制構築及び整備を行っていった状況を伝えました。加えて、そこには、ソーシャルワークの視点とスキルを活用していたことについて触れました。抄録や報告書を作る過程で、当時の支援活動を振り返る事が出来ました。活動を整理する中で、コロナ禍という、人と人のつながりを困難にする環境の中でも、ソーシャルワーカーとして、状況をアセスメントし、課題を整理し多角で可能性を模索し、様々



災害時支援委員会 畠田 寛史

なツールを活用することで、必ず何かしらの打開策が見いだせることを実感しました。また、支援活動員として登録してくださった、会員の皆さんの協力があってこそ、成り立っていた活動であり、災害時支援委員会の普段からの活動と繋がりがあってこそ体制整備がスムーズに行えていたことを再認識しました。今回は、Zoomによるオンライン開催であったため、会場や参加者の雰囲気等を感じることは出来ませんでしたが、貴重な体験をさせてもらいましたし、オンラインの研修等については、今後も必要な研修形態の一つになるものだと実感しました。最後になりましたが、本来は支援活動を支える黒子役ともいえるサポートチームの活動を報告する機会を頂き本当にありがとうございました。

【参加報告】

10月16日に大分県社会福祉士会主催の九州・沖縄ブロック社会福祉士研修会がWeb開催されました。大会テーマは「変化は進化-evolutionary change-社会福祉士として変わるものと変わらないコト」で、九州各県から約150名の参加でした。

最初の基調講演は、おおいた子ども支援ネット専務理事の矢野茂生氏による「児童福祉からの挑戦！～しなやかに紡ぎあえる社会づくりをめざして～」というテーマで、これまでの取り組みを通して話をされました。子どもや若者を地域でどう支えていくか、つながりをどう創りだしていくか、型にはまることではなく形づくりをしていく

ことの大切さ、福祉課題と地域課題に注目し地域社会を機能化していくことの必要性など、“福祉をデザインすること”についての内容でした。ソーシャルワークを考えていく上でとても勉強になりました。二つ目の基調講演は、弁護士の徳田靖之氏による「救済の客体から参加する主体へ一障がいの社会モデルから何を学ぶべきかー」というテーマでした。自身の障がい問題とのかかわり、弁護士として事件に関わり条例作りに取りむことになった経緯、障がいを社会モデルとしてとらえること、JR無人化反対訴訟などを通して感じたことを話していただきました。改めて社会の中での“障がい”について考

災害時支援委員会 磯田 千絵

えさせられ自分自身の認識も振り返ることが出来ました。

後半は各県からの実践報告でした。自殺対策、意思決定支援、災害支援でのツール活用、つながり等をキーワードに報告がありました。各県のテーマは様々でしたが、既存の支援方法にどまらず現状で出来ることを考え創りだすことが大切なことを考えさせられる報告でした。

今回九州ブロック大会に参加し、社会福祉士としての役割を再認識することができました。大会テーマである「変化は進化」を意識しながら今後も取り組んでいきたいと思いました。

災害対応シミュレーション会議 報告

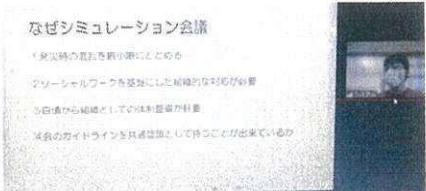
災害時支援委員会 田中 智也

(開催趣旨) ~『災害対応シミュレーション会議のご案内』より~

本県では2016年「熊本地震」、2020年「令和2年7月豪雨」と被災し、その記憶もまだ新しいところであります。今後、自然災害等による緊急事態が生じた際に、速やかに県士会として必要な災害対策、体制整備を図ることが急務となっております。

そこで災害時支援委員会では、会の運営を担っておられる皆様（三役、理事、監事、委員長、ブロック長）を対象とした『災害対応シミュレーション会議』を企画致しました。災害発生時の初期対応について検討し体制整備につなげるとともに、県士会ガイドラインの周知が出来ればと考えています。今回は、発災時に集まつての話し合いが難しい場合を想定しオンラインという形態で実施しました。

2021年9月20日、災害対応シミュレーション会議を開催しました。本会議は、災害発生時の段階ごとに県士会の役割・立場（理事監事・委員長・ブロック長等）に応じて検討を行うことでソーシャルワークを基盤にした組織的な対応や体制整備につなげるとともに、災害対策ガイドラインの周知につなげ、発災時の混乱を最小限にとどめることを目的とし、災害時支援委員会が主催で実施しています。



今回は、水害が起ったと想定してのシミュレーション会議を行いました。水害時は、集合形式での会議が難しいことが予想されるため、Zoomを使いリモート形式で実施しました。

【演習1 ブロック長・委員長用】
「水害が発生しました。今のところ県士会からは特に連絡や指示はありません。委員長、ブロック長として「行う必要がある事」を列挙し、それを実行するまでの具体的な方法と課題を挙げてください。」

キーワード
・できる出来ないを想定せず多くの意見を出す。
・出した意見の方法と課題を挙げる

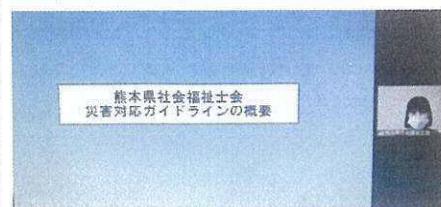
18名の方が参加され、県士会の災害対策ガイドライン

の災害発生時の具体的活動を中心説明を行ったうえで、理事監事、委員長、ブロック長の3グループに分かれ、2つの演習に取り組んでいただきました。

各グループ活発な意見交換が行われており、自分の役割や立場から実際の発災時を想定した具体的な意見が出ていました。2つの演習後、参加者の方から「自分の立場としての災害時の対応すべきことが少し具体的になった」、

「今後も定期的に開催が必要と感じた」、「いかに平時から体制をとっておくのか、理解を共有できているのかが最も重要と感じた」、「オンラインの仕組みが非常に進歩してきたので、これを最大限に活用したい」、「ブロック内の連絡体制を整えたい」、

「各委員会で災害マニュアルの作成や災害対応シミュレーション会議の開催をしてもよいのではないか」、「今後ガイドラインの一部修正も必要になる」等の感想や意見が挙がりました。



今回の会議を通じ、発災時の各段階をシミュレーションすることで現状の災害対応や組織としての体制の課題や改善点を確認・再検討していくため、今後も定期的に災害対応シミュレーション会議を継続していく必要性を感じました。今回は、水害を想定しての会議でしたが、今後は地震や台風などのあらゆる災害を想定し、会議を行っていければと思います。また、ガイドラインの一部修正や連絡体制の整備については委員会内で検討していきたいと思います。最後になりましたが、ご多忙の折参加いただき、ありがとうございました。

【当日のスケジュール】

14:00	開会 会長挨拶 趣旨説明
14:05	ガイドライン概要
14:15	シミュレーション 対応会議
15:15	まとめ
15:30	閉会

2021年度 災害支援活動者養成研修 開催報告

災害時支援委員会 田尻 龍一

11月27日（土）にオンライン（Zoom）にて、2021年度 災害支援活動者養成研修を開催しました。本研修は、2017年度から毎年1回の頻度で開催（昨年度は開催見送り）しており、今回が4回目の開催となりました。

①支援を受け入れた立場から（被災者の視点）、②支援に赴いた立場から（支援者の視点）、③被災者支援の心構え（専門職としての災害支援の在り方）という3つの講義と、被災者支援の心構えについて考えるというテーマでの演習を組み合わせたカリキュラムです。専門職である社会福祉士としての支援の在り方を考え、実際に災害が発生した際に支援に赴く際の心構えを学ぶことで、災害支援活動者養成することを目的としており、今回は初めてのオンライン開催で、29名の参加（内1名

は県外からの参加）がありました。



これまでの養成研修では、それぞれの立場で災害支援を経験した会員（社会福祉士）が講師となって講義を行ってきましたが、今回は初めて会員外の講師として、球磨村役場保健課の松本憲吾係長を迎え、社会福祉士会の支援を受けて感じたこと、被災直後から復興に向けての動きなどを話していただきました。また、行政職員として専門職に求められていること等にも触れていただきました。

た。受講者の中には、球磨村での災害支援に携わった方も多く、当時のことを振り返りながら講義に耳を傾けていました。



この先、いつ、どこで、どのような災害が発生するかは誰にも分かりませんが、今後社会福祉士として災害支援活動に携わる際には、専門職としてどう考え、どう行動するべきか、今回の養成研修で学んだことを活かしていくかと思います。

まずこの場をお借りして、支援に来ていたいただいた方、携われた方へ感謝申し上げます。

当時は目の前のことに対する緊張いっぱいの状態で、包括の通常業務がほとんどできていない状態でした。そのなかで支援に来られた方に「あなたは休めているの？」と声をかけていただいた時、自分の許容量が限界に達していたことを自覚し、「頼ってもいいんだ」と安心したことなどを覚えています。

支援に来られた方の話を聞くと、こちらの負担にならないよう様々な配慮をしていただいていたんだと改めて感じ、この配慮があったからこそ、安心して支援を受け入れることができたのだと思います。

研修の際、参加された方の職域は様々でしたが、当時も同様に様々な職域の社会福祉士の方に支援に来ていただきました。社会福祉士という一つの資格でも職域が様々なことで多機能性が生まれたこと、しっかりと

人吉球磨ブロック 東 はづき

相手に寄り添うことができるということが社会福祉士の強みではないかと思います。

災害を経験した当事者だからこそ、災害支援に活かせることがあると思います。災害は起きないのが一番ですが、もし今後災害が起り自分自身が支援に赴くことがある際は、少しでも被災地の支えになりたいと思います。

人吉球磨ブロック 福井 由香里

令和3年7月4日私が生まれ育った球磨村の美しかった景色が一変しました。あまりの被害の大きさに無力感に苛まれながら、目の前の仕事をこなす日々でした。地域の専門職が動けない状況の中、遠くから支援に入つて頂いた皆様には本当に感謝しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回災害研修に参加し、実際に災害支援とはどのような支援を行うのかを具体的に学ぶことができました。被災地は特別な場ではなく日常生活の延長である為、特別なスキルは必要ではなくソーシャルワークの基本があれば大丈夫である事を聞いて安心しました。また被災地の専門職の後方支援を行う事、被災地を主体と

し、被災地が自立できていくよう終了を見据えた支援を行う事が専門職としての役割だと分かりました。

「できることをできたしこ」災害後よく言われる言葉です。今後私も自分のできる範囲で支援に参加し、今回の経験を次の支援者につないでいく事ができるようになれたと研修を通して感じました。

2021年度受験対策講座・模擬試験実施報告

受験対策委員会 横手 由利

受験対策委員会では、社会福祉士の受験対策講座と模擬試験を実施いたしました。

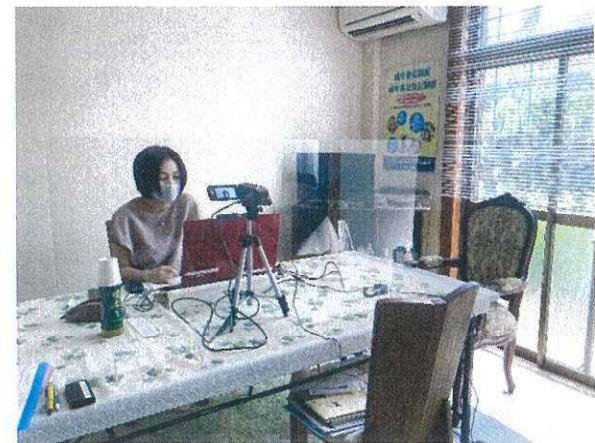
受験対策講座については、当初予定していました対面とweb配信によるハイブリッド型の方法を変更し、9月～10月にweb配信のみで全5日間の日程で開催いたしました。コロナ禍で2年ぶりの開催となり、またweb配信という初の試みのなか、内心は無事に実施できるのかと心配の方が大きかったのですが、受講者・講師の方々のご理解と、web

プロジェクトチームからの心強いご支援のおかげをもちまして、大きなトラブルなく終えることが出来、安堵いたしました。

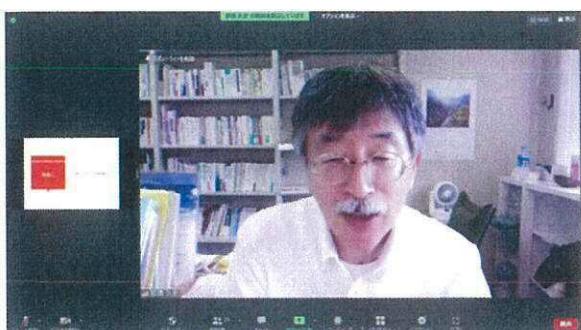
今年度の特徴としては、19科目のうち約半数で新規の

講師をお迎えしたこと、またweb配信になったことで、スライドを画面に表示しての講義方法といった、これまでなかった新しいスタイルを取り入れるきっかけにも繋がりました。

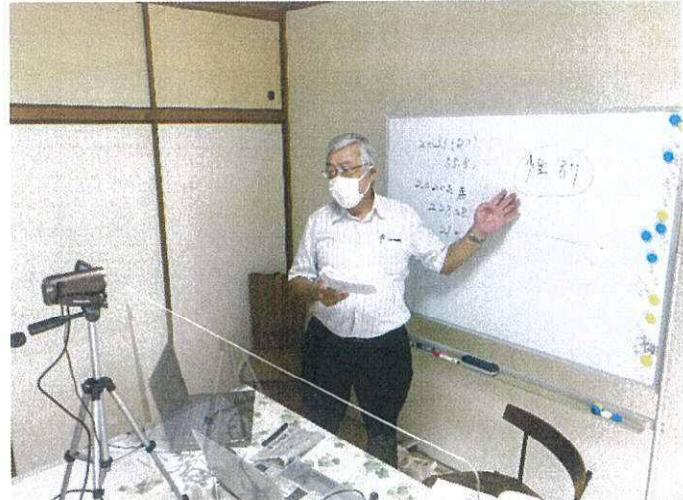
講師の方々からは、「講師を引き受けるにあたり、試験について科目の分析をすることで、改めて自分自身の理解を深めることに繋がった」「対面式に比べて受講者とのコミュニケーションを取るのが難しかった」「受講者の反応が分かりづらかった」というご意見を頂戴しました。一方で受講者からは、



「受験について」 講師：岡村ゆかり理事



「高齢者に対する支援と介護保険制度」
講師：那須 久史さん



「低所得者に対する支援と生活保護制度」

講師：永田直往副会長

「web配信には慣れているので安心して取り組めた」「試験勉強のモチベーションが上がった」という意見がアンケートを通して聞かれました。

最後に、介護支援専門員の講座につきましては、8月下旬に対面での開催を計画しておりましたが、県下の新型コロナウイルス感染者数の急増と蔓延防止等重点措置を受け、やむを得ず開催中止、模試については在宅受験へ変更とさせて頂きました。申込者はもちろんのこと、開催に向けて準備をして下さった講師の方々には、大変ご迷惑をお掛けいたしました。今年度の反省や課題を踏まえ、来年度以降におきましても、一人でも多くの皆様の資格取得のお力となるよう、委員会一同、より一層、活動に取り組んでまいります。

2021年度社会福祉士実習指導者講習会を開催しました

研修委員会 副委員長 山本 千香子

去る11月13日・14日、2日間の日程で社会福祉士実習指導者講習会が開催しましたのでご報告します。

昨年度は、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に配慮した会場受講とオンライン受講を合わせたハイブリッド形式での開催でしたが、今年度は、オンラインのみの開催でした。



本講習会は、社会福祉士取得を目指す学生がソーシャルワーク実習の単位を得るために、「実習指導者養成講習会を受講した社会福祉士が実習指導者であること」が義務付けられたことを受け、2012年度から毎年熊本県社会福祉士会が主催して実施しています。



第1日目は、実習指導概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論がありました。実習指導概論ではソーシャルワーク専門職のグローバル定義をもとに社会福祉士の役割と意義を確認し、実習マネジメント論では実習受け入れの意義や実習マネジメントの効果等の講義、実習プログラミング論では、職場実習、職種実習、SW実習の3段階プログラムの具体例の提示があり、実習指導者になることは「自らのSW実践を科学的に証拠立てて「見せて」「伝承できる」社会福祉士である

ことが求められる」ということを共有しました。

第2日目は実習スーパービジョン論の講義と演習でした。講義でスーパービジョンの構造と機能を学んだ後、演習がありました。演習では実習指導者と実習生の関係をよりよくすることを目的としたワークがあり、受講生も多く学びを得たようでした。このワークは、例年盛り上がる時間ですので、受講のお楽しみとして詳細は控えさせていただきます。

2021年度に社会福祉士養成カリキュラムが改正され、科目構成と実習時間が大きく変更されました。「ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士の強化」を目標に、「相談援助」から「ソーシャルワーク」への転換、

「講義-演習-実習」の学習、地域における包括的支援体制の構築などマクロ実践の強化、実践力を有する人材養成、実習時間・実習施設数の増加などです。この改正を受け、実習指導者が実習指導に「ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士」育成をどのように組み込んでいくかが課題になります。今まで実習指導者講習会を受講された方は引き続き実習指導を行うことができますが、各自、新しい養成カリキュラムに対応した実習指導が実施できるようなアップデートが必要だと思います。また、日本社会福祉士会生涯研修センターでは、新しい社会福祉士養成カリキュラムに対応した実習指導者講習会プログラムの見直しが進んでいますので、今後の講習会の案内については、熊本県社会福祉士会のホームページで確認いただけますようご案内致します。

最後に、受講にあたって通信環境の整備等、様々な条件をクリアして参加いただきました受講生の皆様、各講師の皆様のご協力に対して感謝申し上げます。特に、熊本県社会福祉士会webプロジェクトチームの皆様の協力なしには本講習会の開催が困難であったことを踏まえ、重ねて感謝申し上げます。研修委員会一同、次年度の開催に向けて準備を進めてまいりますので皆様の参加をお待ち申し上げます。

菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展＆講演会開催

りんどう相談支援センター 西 章男



作品を観る学生たち

11月1日（月）から11月5日（金）の間、九州ルーテル学院大学工カード会館にて金陽会の作品展と、ヒューマンライツふくおかの理事である蔵座江美さんの講演会を11月3日13時から九州ルーテル学院大学の公開講座として開催しました。

5日間の作品展には、大学生を中心に274名が来場しました。

今回のテーマは『「知らない」を観に行こう』ハンセン病問題について、絵画を通して、恵楓園での作者の生き方や思いにふれ、さまざまな人権問題や差別の問題を考えるきっかけとしてもらうことが大きな目的でした。

学生の感想を紹介します。「それぞれに独自の表現があり、どの絵も素敵でした。絵画を通して、どんな人だったのだろう、どんな思いを持っていたのだろうと考えました。また、生活の様子も少し知ることができ、様々な作品を見て、絵を描くことが自分の思いや存在を表現する方法であったのかなと感じました。

多くの作品で故郷や家族を想っていたことが伝わってきました。偏見や差別によって故郷に戻れず、家族にも会えないことはとてもつらい思いだっただろうと感じました。

隔離政策が多く人の人生を奪ってしまったのだと思いまし

た。隔離の壁の作品では、壁の向こうの差別や偏見がハンセン病の患者さんを苦しめたのだということが伝わり、差別や偏見、排除を解消するために、まずは正しく知っていこうと思いました。

熊本地震やコロナ禍での生活を体験してきた学生や生徒の感受性と、それに基づいた発信力・行動力の可能性は無限です。

今回の作品展は、若者の可能性を地域へ、そして未来に開く、社会福祉士会だからこそできる意義ある実践であると考えます。



木村副知事に絵画の説明をする蔵座さん

11月3日に行われた蔵座さんの講演会には中学生から80代と幅広い年代の43名がいらっしゃいました。様々な作品の背景にある作者の思いや経緯を作者本人と直接聞わりながら丁寧に聞き取ってきた蔵座さんだからこそ響くものがあったと思います。

講演では、昨年天草で開催された「ふるさと、天草に帰る」の作品展を観に来たハンセン病の患者さんを差別した体験をもつ方のエピソードが紹介されました。「私は誰に謝ればいいのですか？」という言葉は、「知らない」を「知る」ことで生じる新たな痛みもあることを考えさせられました。

もし、その時代の流れの中に自分がいても「差別することは絶対なかった」とは言い切れません。私たち社会福祉士の強みは「人と環境との間にある課題に焦点をあてること」、「人と問題を切り離して考えることができること」、「環境（社会）に働きかけることができる」ことです。菊池恵楓園がある熊本県の社会福祉士であるからこそ、ハンセン病問題の「知らない」から「知る」ことにかかる使命を改めて考えた作品展であり講演会でした。

作品展、講演会の様子は新聞やテレビでも紹介されました。11月4日は副知事も来場しました。

また、今回の会場九州ルーテル学院大学は、黒髪校事件（1954年）の黒髪にあること、学院の創設者であるマーサ・B・エカードは恵楓園での活動をはじめハンセン病患者さんとのかかわりをライフワークにしていたことも、作品展・講演会を行う意義を高める歴史でした。



エカード会館前のエカード像

Information

◆2021年度未成年後見人養成研修

主催：熊本県社会福祉士会ばあとなあ熊本

協力：福岡県社会福祉士会ばあとなあ福岡

日時：2022年1月8日（土）、9日（日）

開催：Zoomでのオンライン研修

※すでに申込を締め切らせていただいております

【りんどうから研修のお知らせ】

- 2022年1月29日（土）10時～ 熊本YMCA ジェーンズホール
熊本県ハンセン病 医療・福祉研修会（ハイブリッド研修予定）
 - （午前）菊池恵楓園の歴史資料館について
ハンセン病回復者の後遺症について
 - （午後）回復者語り
医師・学識経験者による鼎談
 参加費：無料
- 2022年2月26日（土）13時～ テルサホール
朗読劇「あん」（『あん』ドリアン助川著）
中井貴恵、ドリアン助川による朗読。入場無料

事務局員紹介



左側より本多さん、横山さん、野口さん、松田さんです。

どうぞよろしくお願いします。

<http://kumacsw.com/>

熊本県社会福祉士会

検索

つぶやき

浅葱色（あさぎいろ）夾竹桃（きようちくとう）カンナ、ジャカランダ、ポイントセチア、解夏（げげ）、これは私が若い頃に聞いていた曲に出てくる言葉や色や花の名前です。古い曲なので分かる人は少ないと思いますが。

どんな色？言葉の意味は？木や花の形を知りたくて直ぐに調べる癖は、

幼少期父との思い出に遡ります。

人見知りで無口だった私は、休日父と図書館や本屋巡りをするのが大好きでした。何時間も本を眺めて、分からぬ言葉を父に聞くと「広辞苑には何でも載っている」と分厚い本を指さすだけでした。少し偏った教え方で理解できるまでに時間がかかりましたが、自分で調べる大切さ

を学び、今では感謝しています。

おうち時間が増えて、大部分のCDやLPレコードを整理してMP3に録音をしています。カセットテープ世代の私が、便利になったブルートゥース機器で懐かしい曲を聞いて楽しんでいます。

広報委員会 中村